

【上砂川町】 端末整備・更新計画

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
① 児童生徒数	105人	100人	98人	94人	91人
② 予備機を含む整備上限台数	120台	115台	0台	0台	0台
③ 整備台数(予備機除く)	0台	100台	0台	0台	0台
④ ③のうち基金事業によるもの	0台	100台	0台	0台	0台
⑤ 累計更新率	0%	100%	0%	0%	0%
⑥ 予備機整備台数	0台	15台	0台	0台	0台
⑦ ⑥のうち基金事業によるもの	0台	15台	0台	0台	0台
⑧ 予備機整備率	—	15%	—	—	—

(端末の整備・更新の考え方)

現行の1人1台端末は、令和2年度にWindows端末を、教職員用と併せて整備している。令和7年度で5年が経過するが、ハード面・ソフト面の両面において故障や不具合が生じており、OSのサポート期間が終了することやWindows端末は端末起動時にアップデートが実施されることで、通信速度に制限がかかること、道立学校がChromebookを導入していることから、端末を令和7年度に更新し、OSはChromeにすることを決定した。

なお、今回の調達では町立小・中学校の児童・生徒と教職員分を合わせて調達する。

(更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について)

○対象台数:131台

○処分方法

使用可能な端末は、指導者用端末や予備機として活用する予定。また、再使用等できない端末は、小型家電リサイクル法に基づく認定事業者若しくは資源有効利用促進法に基づく製造事業者等への処理委託を依頼し、端末内のデータ消去についても委託する予定。

○スケジュール(予定)

令和7年10月 新規リース端末の使用開始

令和7年12月 処分業者選定

令和8年 2月 使用済端末の事業者への引き渡し

【上砂川町】 ネットワーク整備計画

1. 必要なネットワーク速度が確保できている学校数、総学校数に占める割合(%)

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
必要なネットワーク速度が確保できている学校の割合	100%	—	—	—	—

2. 必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール

運用において大きな支障は生じていませんが、万一支障が生じた場合は、改善の措置を講じます。

【上砂川町】 校務DX計画

上砂川町では、GIGAスクール構想の下において、校務DXを推進し、教員の児童生徒に向き合う時間の確保することや、働きやすさの向上による教員の心身健康保持実現及び誇りとやりがいをもって従事できる職場環境の整備を積極的に推進します。

1.学校DX推進について

学校から各家庭への配布物等について、アプリを積極的に活用します。また、児童生徒の端末持ち帰りを積極的に進め、家庭学習におけるデジタル化を進めます。

2.教員業務の効率化について

校務支援システムを中心に、クラウドサービスを活用し職員間の情報共有や連絡について、ペーパーレス化等効率化を順次進め、日常業務の効率化を促進します。

3.ICT支援員の配置について

ICT支援員の配置により、授業・研修・校務におけるICT利活用の支援を行い、教員における業務効率化を図ります。

4. FAX・押印・署名について

令和5年12月に文部科学省が公表した「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検結果の報告によると、保護者や外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類があり、クラウド環境を活用した校務DXを大きく阻害していることが指摘されていることから、災害や教育ネットワークの不具合時などFAXの方が電子メール等より効果的な場合を除き、FAX・押印を廃止することに向けて、学校や関係機関・団体と協議を進めます。

【上砂川町】 1人1台端末の利活用に係る計画

1.1人1台端末をはじめとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領及び中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」が示されています。

このことを踏まえ、当町では、児童生徒に1人1台配備した専用タブレット端末と学習支援ソフトやデジタルドリルの効果的な活用、ICTの活用により、誰一人取り残すことなく「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現することを目指します。

2.GIGA 第1期の総括

第1期において、各小中学校へ1人1台の端末配備及び利用環境の整備を実施し、学校でのICT活用が年々増加するなか、児童生徒の主体的な学びが促進され、効果的な学習につながりつつあります。

また、1人1台端末の導入により、授業における意見共有等が進み、協働学習の機会も増加しています。さらに、令和6年度からはAIドリル等学習支援ソフトを導入し、活用しています。

今後も、児童生徒及び教職員のICTの活用・習熟度の差の縮小を図りながら、これまで以上に「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向け努めます。

3.1人1台端末の利活用方策

デジタル教科書、学習支援ソフトを効果的に活用し、個々の興味や関心、発達や学習の課題などを踏まえて、それぞれの個性に応じた学びとなるよう1人1台端末を積極的に活用し、児童生徒の主体的な学びを支援します。